

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等		—	
事業毎の通番		2		市町村名		諏訪市	
事業目的		諏訪市南沢地区は、地質脆弱・地形急峻のために、渓岸侵食・崩壊や土砂堆積が顕在化してきているほか、質の低下した森林(過密化・疎林化)が散見され、治山対策による流域の安定化が必要な状況にある。 下流域には、住宅地や高速道路等の重要な保全対象が存在するため、今後の豪雨等により土砂流出へと至った場合、多大な被害が発生する恐れがあることから、谷止工、護岸工、森林整備、簡易治山施設により流域の安定化を図る。		箇所名(ふりがな)		南沢(みなみさわ)	
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け		4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法	
関連する事業、計画等							
保全対象・範囲 受益対象・範囲		人家16戸、高速道路200m、市道200m					
着手年度		平成30年度		事業期間		2年間	
完成年度(見込み)		平成31年度		費用対効果		9.6	
全体事業内容(主な工種)		谷止工(コンクリート)3個 森林整備1.5ha、植栽0.5ha		事業費(千円)		50,000	
				財源内訳(千円)		国庫 25,000 県債 22,000 一般財源 3,000	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的)		荒廃渓流・崩壊斜面の安定、土砂流出の抑止 人家、高速道路、市道の保全			
		間接的効果(定量的・定性的)		災害に強い森林づくり 自然環境の維持・保全			
評価の視点		必要性		○人家戸数： 16戸 ○公共施設数： 2箇所 高速道路200m、市道200m ○要配慮者利用施設の有無： 無 ○保安林・林業用施設： 保安林率100% 土砂流出防備保安林(H29申請手続中)		評価	
		重要性		○過去の災害履歴： 無 ○交通遮断による地域経済への影響： 大 大動脈である中央自動車道 ○地域防災計画上の位置付け： 有 長野県地域防災計画、諏訪市地域防災計画		評価	
		効率性		○費用対効果(B/C)： 9.55 ○事業期間： 2年 H30～H31 ○工法等の比較検討： 有 最新技術の活用、荒廃機構や地形特性を踏まえた工法 ○流域の総合調整： 有 全て治山事業で対応予定		評価	
		緊急性		○流域の地形、地質： 火山噴出物 新第三紀火山岩類 ○平均渓床勾配(平均山腹勾配)： 13°～40° ○下流の堰堤等の整備状況： 有(ポケットあり) ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域 崩壊土砂流出危険地区206-14南沢(Aランク)		評価	
		計画熟度		○事業情報の共有： 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み： 協力的である ○地域の合意形成： 合意形成が図られている ○住民との協働： 日常の見回り・点検等を継続していく予定		評価	
		部局意見		平成18年7月豪雨や平成21年8月豪雨等により、渓流の荒廃が進行するとともに、森林の質が低下していることから、放置すれば今後の豪雨等により下流の人家や高速道路に土砂が流出する恐れがあるため対策工事を行う必要がある。		採択状況	
技術管理室意見		部局の意見を適当と認める。		○		A	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので) 	
【整備の必要性がわかる状況写真等】 	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	下流域に多くの住宅や主要な道路を抱える南沢川では、平成8年に土石流対策として砂防えん堤が設置されたものの、平成18年7月豪雨や平成21年8月豪雨等により、中～上流域で渓岸侵食・崩壊、土砂の堆積等の新たな荒廃が顕在化し始め、また、森林の質の低下(過密化、疎林化)も見られるため、災害の未然防止のためにさらなる流域の安定化が求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	豪雨等による土石流災害を危惧して、平成25年から毎年南真志野区から諏訪市を経由して治山対策の要望が上げられている(諏訪市内での優先順位は最上位)。事業地に係る土地所有者が多数存在するため、保安林指定承諾の取得が困難という状況であったが、南真志野区及び南真志野生産森林組合が主体となって説明や取りまとめを行い、平成29年8月に保安林指定申請が整った。
③事業説明等の経緯	H29年2月17日及び5月10日に、諏訪市及び住民代表者の事業化に向けた情報共有・周知を図り合意を得た。今後、事業実施が具体的にいった段階で、地域住民への説明会を開催する予定である。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	コンクリート構造物のみに頼るのではなく、土砂流出を抑止するための「災害に強い森林」の造成など、森林の持つ機能を活かし、自然環境に調和した整備を取り入れる。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業を契機に、さらなる地域主体の里山保全と山地防災(住民による流域の点検、森林管理等)を促していく。
⑦その他	最新技術である航空レーザ測量による地形解析や森林解析結果を活用し、流域の地形や森林特性を踏まえた合理的な工種・工法を検討している。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 06' 16" 00 東経:E 138° 05' 42" 00